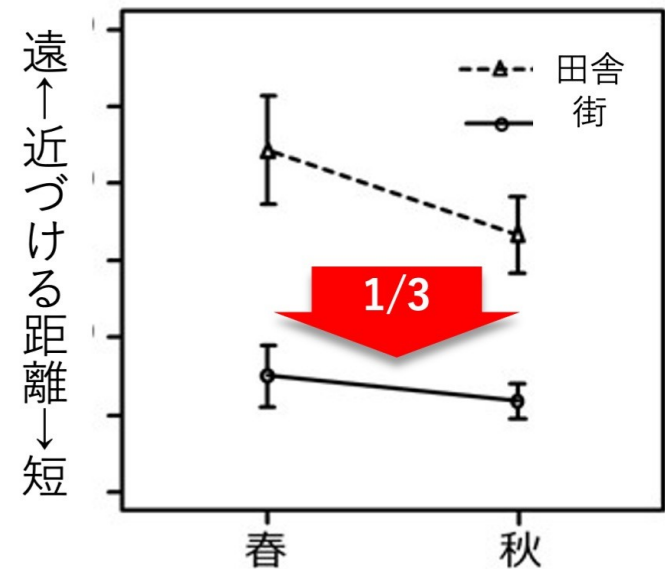




私たちはこれまで、街と田舎で暮らすリスの調査を通じて、都市環境が野生動物に与える影響を調べてきました。身近に感じるリスたち、でもその暮らしぶりの多くはまだ謎に包まれています。

街で暮らす生物は、田舎にいる生物に比べて、“警戒心”が低いと言われています。街は自然下ほど天敵に襲われる心配がありません。また、本来は天敵となりうる人間も街ではリスにフレンドリーですよ。実際調べて見たところ、街のリスは田舎のリスに比べて、警戒心が1/3になっていることが分かりました。例えば、田舎のリスは19mまでしか近づけないのに比べて、街のリスは一年を通して約6mまで近づけます。



春と秋の、街と田舎のリスの警戒心の程度を表した表

リス通信では、私たちの研究の一部を紹介していきます。野生動物研究は、成果の出にくい分野です。しかし、調査を始めて5年目、少しずつ成果が出始めました。ご協力くださった皆様に少しでも成果を還元できたら幸いです。
内田(旧北大, 現カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

これまで30以上の公園や森で暮らすリスたちを観察してきました。感覚的に“なんとなく”分かっていることでも、調査を通じて数値として明らかにして、その謎に迫ることも私たちの役割の一つです。皆さんがいつも目にするリスは、何mまで近づけますか？